株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	株主総会・期末配当は毎年3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号
郵便物送付先	中央三井信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	電話0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社　全国各支店 日本証券代行株式会社　本店および全国各支店
公告方法	電子公告 http://www.jfe-systems.com/ir/houtei.html ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京証券取引所第二部

（ご注意）本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。

＜株券電子化実施後の手続きのお申出先について＞

2009年1月5日（月曜日）から、上場会社の株券電子化が実施される予定です。これに伴い、上場会社の株券はすべて無効となり、株主様の権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理されますので、以下のとおり手続きのお申出先が変更となります。

1．株券電子化後の未払配当金の支払のお申出先
　これまでどおり、株主名簿管理人にお申出ください。
2．株券電子化後の住所変更、配当金受取方法の指定等のお申出先
　①証券保管振替機構（ほふり）に株券を預けられている株主様
　　→お取引証券会社等
　②証券保管振替機構（ほふり）に株券を預けられていない株主様
　　→特別口座を開設する下記口座管理機関

なお、②に該当される株主様につきましては、証券会社等のご本人様口座への振替請求を含めまして、お申出を受付けることができるのは、特別口座に記録される予定日であります2009年1月26日（月曜日）からとなりますのでご了承ください。

口座管理機関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同ご照会先	〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号
郵便物送付先	中央三井信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	電話0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社　全国各支店 日本証券代行株式会社　本店および全国各支店

http://www.jfe-systems.com

当社のホームページでは、投資家のみなさま向けの「IR情報」をはじめ、
最新のニュースをお知らせする「What’s New」、
お客様の導入実績をご紹介する「実績紹介」など、
さまざまな情報を公開しています。

JFE システムズ 株式会社

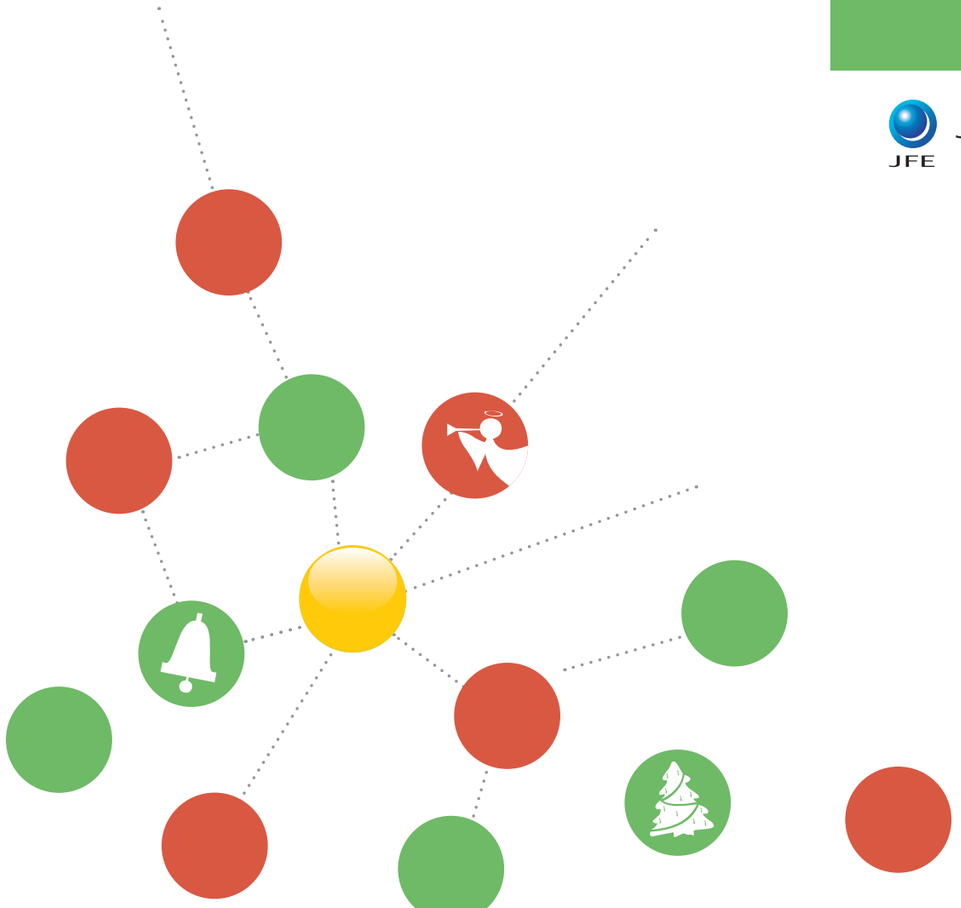
PRINTED WITH SOY INK
本冊子は、環境保全のため再生紙を使用し、大豆油インキで印刷しています。

株主のみなさまへ

2009年3月期中間ご報告
2008年4月1日－2008年9月30日

JFE システムズ 株式会社

証券コード：4832



重点顧客戦略と競争力を持つ独自商品の展開により、4期連続の増益を目指す

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

当上半期は、景気の減速感が一段と高まっていく中、重点顧客戦略と競争力を持つ独自商品の展開という基本方針の下、業績向上に取り組んだ期でありました。品質向上や顧客業務への習熟度が向上したことにより、重点顧客向けのビジネスは安定感が増し、一層の手ごたえを感じています。また、食品品質管理システム、緊急地震速報サービスなど、「安全・安心」という社会共通のニーズに対応した独自の商品展開が顧客の支持を得るとともに、原材料価格が高騰する中で当社固有の経験とノウハウを注いだ原価管理システム「J-CCOREs（ジェイシーコアーズ）」が新たなコアとなる商品として育ちつつあります。

我々SIベンダーの「価値」は顧客から託された責任を信頼という形でお返しするという当たり前のことを、きちんとやり続けることにあります。現在および未来の顧客に対し、このような愚直ともいうべき姿を見せていくことで我々に対する評価が定まってくると考えています。今回トピックスでご紹介している、「J-Smile（JFEスチール新統合システム）」のWITSA（世界情報サービス産業機構）『2008年ITユーザー表彰』受賞は、その最たる事例であります。

経営環境は今後さらに厳しくなることが懸念されますが、顧客の経営課題に直結するIT投資は依然として継続するものと予想しています。顧客と一心同体となって、これらの基幹的な分野の情報システム提案を積極的に行い、価値を実現していくことが、結果的に当社グループの業績向上につながるものと信じています。

株主のみなさまにおかれましては、当社グループの取組みについてご理解をいただき、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長　岩橋　誠

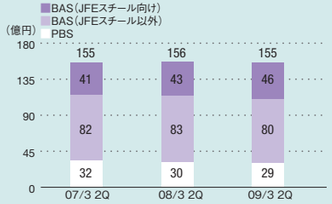
2009年3月期第２四半期累計期間業績概況

◉製造流通向けBASでプロジェクトリスク管理の強化や顧客業務習熟度の向上により、利益率が改善
◉コンタクトセンターシステム事業の合理化効果、電子帳票システムの収益増等により前年同期を上回った

2009年3月期業績見通し

◉JFEスチールIT投資への対応、製造流通向け重点顧客戦略の推進と原価管理ｼｽﾃﾑの展開により収益を拡大
◉食品新ソリューションの展開と大手食品メーカーへの提案拡大、電子帳票システムの継続推進により収益を拡大

2009年3月期第２四半期累計期間の売上高実績（連結）

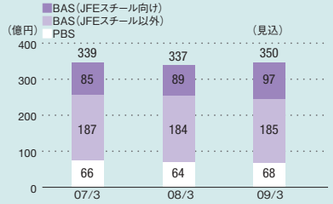


BAS事業
ＪＦＥスチール向けが増加。金融は横ばい。製造流通業向けは下期計上案件が多いこと等により減少

PBS事業
食品、BIシステム、防災等が増加。EC・EDIシステムは受注の遅れなどにより減少

BAS：ビジネスアプリケーション・システム事業
（顧客要求に応じた業務システムの構築）
PBS：プロダクトベース・ソリューション事業
（パッケージソフトを主体にした基盤系システムの構築）

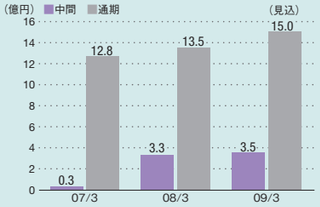
2009年3月期の売上高見通し（連結）



BAS事業
ＪＦＥスチール向けはIT投資の増加を見込む。製造流通向けは重点顧客、原価管理での増加を狙う

PBS事業
上期受注が好調な食品、電子帳票等で下期売上増を狙う

2009年3月期第２四半期累計期間の経常利益実績と2009年3月期見通し（連結）



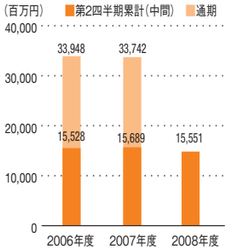
BAS事業売上総利益
プロジェクト管理活動の成果、顧客業務への習熟度向上により、利益率を改善

PBS事業売上総利益
売上総利益率の高いPBS事業の売上高の増加により、大幅な売上総利益増を狙う

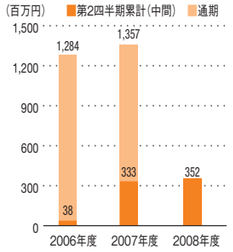
販売費・一般管理費
人材育成、事業開発費用（基幹系ソリューション開発）等の予算を増加

Consolidated Financial Highlights　連結財務ハイライト

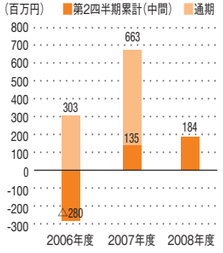
売上高



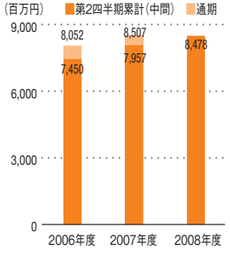
経常利益



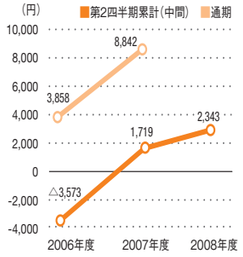
当期純利益



純資産



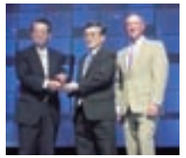
1株当たり当期純利益



1株当たり純資産

Topics　トピックス

当社が開発に参画した、JFEスチール株式会社の新統合システム（J-Smile）が「世界情報サービス産業機構（WITSA）IT賞2008」を受賞



表彰名：WITSA IT賞 2008　民間部門IT賞
受賞者：JFEスチール株式会社
受賞システム名：新統合システム（J-Smile）
開発責任者：JFEスチール株式会社 システム主監 菊川裕幸

WITSAは世界71ヵ国の情報サービス団体で構成され、同賞は世界を代表するベストITユーザ事例を表彰するものです。

JFEスチール株式会社はJ-Smileの構築において、ビジネスとシステムの両面で統合と変革を同時に行う「統合変革型」で基幹システムに取り組み、企業文化の融合と新たな文化の創出を促進するとともに、企業の継続的な変革を支える「変化に強いシステム」への全面刷新を短期間で行っています。今回の受賞は、これらの点が国際的にも高く評価された結果であると考えております。

重点課題への取組み状況

経営環境

経済情勢の急速な悪化

緊急度の高いテーマへの
IT投資への絞り込み

実績、強みを重視した
業者選別の厳格化

**JFEスチール
次期中期計画への対応**

国内増産体制(3,300万t)
積極的な海外事業展開
業務の効率化、スピードアップ

重点課題

1 重点顧客戦略の推進

2 独自プロダクト
ソリューションの強化

3 JFEスチール
中期IT戦略への対応

グローバル対応力の強化

人材育成体系・内容の
大幅な見直し

1 重点顧客戦略の推進
→基幹業務、得意分野に注力

上期の活動・成果

重点顧客への定着が進み、利益率が改善

・プロジェクト管理活動の成果
・顧客業務への習熟

重点課題

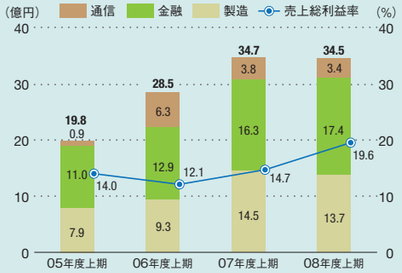
基幹系システム受注へ注力

・企画要員の配置増強
・リピート展開(自動車等)

・当社固有の分野を拡大

・原価管理、SCMの提案を強化

安定顧客売上高推移



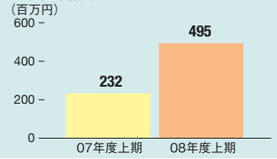
2 独自プロダクト・ソリューションの強化
→原価管理システムを新たなコアプロダクトに

食　品

大手食品メーカー多数に納入実績
「食の安全」ニーズ拡大
・Mercrius（品質管理）
・Quebel（製法管理）
・Vestia（中小向け）
・食品電子カルテ(SaaS*型)
＊必要なソフトウェアをネットワークを介してオンラインで利用する形態

新商品で大手メーカーにさらに拡販
SaaS型サービスを起点に裾野拡大

▼受注高推移

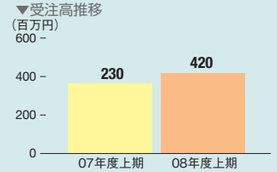


電子帳票

3大メガバンクをはじめ地銀
証券等に納入実績。シェアNo.1
・FiBridgeⅡ（電子帳票）

商品開発投資拡大
→データ配信　・イメージデータ管理

▼受注高推移

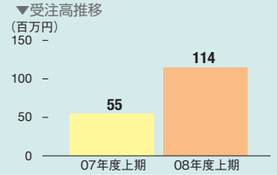


原価管理

精密なコスト分析機能が高評価
原材料高で引き合い急増中
・J-CCOREs（原価管理）

コンサル要員を中心に人材を増強
→新たなコアプロダクトとして注力

▼受注高推移



3 JFEスチール中期IT戦略
投資への対応

当社の役割

国内3,300万t体制への貢献

製鉄所システムリフレッシュ
品質、計画、物流分野のIT投資対応

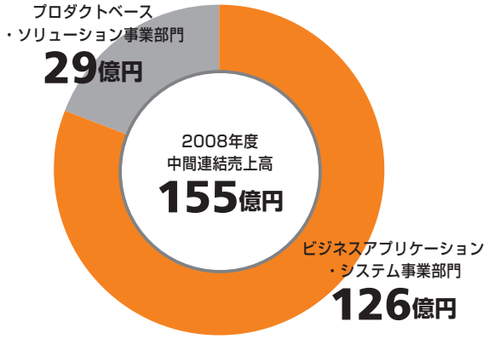
JFEスチール海外戦略へＩＴで貢献

一貫製鉄事業FSへ参画

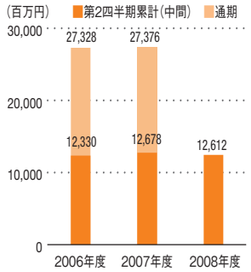
ITによる業務改革を支援

「見える化」「内部統制」など

**企画フェーズ人材の確保・育成
共通フレームワークによる生産性UP**

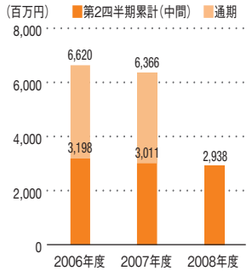


ビジネスアプリケーション・システム事業部門
(顧客要求に応じた業務システムの構築)



JFEスチール株式会社向けの売上高が同社製鉄所のリフレッシュ案件等により前年同期に比べ増加する一方、製造流通業向けの売上高は昨年に比べ下期計上案件が多いこと等により当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ減少しております。以上により当第2四半期連結累計期間の連結売上高はほぼ前年同期並みの12,612百万円となりました。

プロダクトベース・ソリューション事業部門
(パッケージソフトを主体とした基盤系システムの構築)



食品品質管理システムや、BI(*1)システム、緊急地震速報サービス等の売上高が前年同期に比べ増加したものの、EC・EDI(*2)システムの受注の遅れなどがあり、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は前年同期比2.4%減の2,938百万円となりました。

(*1) BI（Business Intelligence）
業務システムなどから蓄積される企業内の膨大なデータを、蓄積、分析、加工して企業の意思決定に利用しようとする手法。

(*2) EC（Electronic Commerce）
電子商取引。
EDI（Electronic DataInterchange）
電子データ交換。企業間の受発注や見積もりなど企業間の商取引をデジタル化し、ネットワークを通じてやりとりする仕組みのこと。

Customer Introduction

お客様紹介 Vol.3

UCC上島珈琲様は、2005年に大阪で開催された当社主催の食品関連セミナーにご参加くださり、Mercrius（メルクリウス）の導入を即決されました。その経緯や導入効果について、品質保証室の松村課長と鬼塚様にお話を伺ってきました。

UCC
Good Coffee Smile

UCC上島珈琲株式会社

【会社概要】

本社所在地：兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目7番7号
資　本　金：49億6,000万円
設　　立：1951年5月28日
従　業　員：（連結）3,668名（2008年3月末現在）
ホームページ：http://www.ucc.co.jp/

左より　当社 広津さん、阪田さん、UCC上島珈琲（株）松村様、鬼塚様、（株）ユーコット・インフォテクノ 梅垣様、大森様

Q 今回のシステム導入を検討されたきっかけを教えてください。

A 大規模な食中毒、違法な添加物の混入、虚偽の表示など、食品メーカーの信頼性が低下するような不祥事が多発している中、お客様やお得意先様に対して「食の安全・安心」を提供し、更なる信頼を獲得しようと考えていました。メーカーとして、お客様やお得意先様からの「製品の品質情報」に関する問い合わせには、迅速にかつ正確な情報で対応しなければなりません。お客様やお得意先様からの信頼を得るため、また不測の事態へ対応するため、さらには品質保証体制の基盤構築の一つとして、社内に分散している商品情報を一元管理することは必須でした。

Q 他にも同じようなシステムがありますが、Mercriusをお選びいただいたポイントはどこにあったのでしょうか。

A 営業担当さんの熱意でしょうか…（笑）。何度も当社に足を運んで、Mercriusを導入したらどうなるかを懇切丁寧に一生懸命説明してくれました。また、当社がパッケージに合わせなければならないのではなく、当社の運用体制を考慮して、パッケージに当てはまらない部分はカスタマイズで対応してもらえるというのも、無理なく入っていけると判断しました。

Q 実際にMercriusを使用されてみてのご感想はいかがですか。社内での評判などがありましたらお聞かせください。

A Mercriusの導入後、お得意先への情報提供部門の皆さん、部門長クラスから「効率が上がったよ」と評価が高かったです。現在、多数の社員がシステムを利用していますが、１つの製品に関する品質情報が一元管理できるということは、関連部門でそれを共有し、常に迅速で正確な情報を提供できる体制が整ったのです。お客様やお得意先様へ提供する情報は、項目が統一され、量のバラツキがなくなり、最新で確実なものとなりました。お客様やお得意先様の信頼を獲得するとともに社内の業務効率も向上できるので、今回のシステム導入は本当に成果があったと考えています。

Q 今後当社に期待されることをお聞かせください。

A 今回は商品情報の一元化という第一ステップを実現しました。今後はさらに次のステップとして、原料や資材のデータベースや製品開発ワークフローの構築を進め、更に全社的に有効活用していきたいと思います。又、お得意先の外部のシステムとの連携も図っていきたいと考えています。今回のMercrius導入において、他社のやり方や考え方を知ることができたことも大きなメリットでした。JFEシステムズさんには、これからも業界動向に関する情報提供や積極的なシステム提案をお願いしたいですね。

左：当社 阪田さん、右：UCC上島珈琲㈱ 松村 様

プロジェクト担当者の声

左より UCC案件保守担当：小笠原さん、村田さん、UCC案件開発担当：白土さん、阪田さん

第1フェーズ（2006年1月～5月）では、構築に際しての役割分担などで十分な意思疎通が図れていない局面もありましたが、そこを乗り越えて無事に本番稼動した事で、より強い関係を持つ事ができたと思います。その際には、品質保証室様や運用保守担当の（株）ユーコット・インフォテクノ様に大変ご尽力いただき、本当に感謝しております。今回、第2フェーズ（2008年6月～10月）の構築を行いましたが、商品情報と原料･資材情報の連携が実現し、今まで以上に皆様のお役に立てると確信しています。

今後も、他社様の事例紹介などを行い、更にご活用いただけるよう取り組んで参りますので、引き続き良好な関係を継続させていただければと考えます。

プロダクト事業部 プロダクトソリューション開発部
DBアプリケーショングループ 阪田 豊

連結貸借対照表（要約）9月30日現在

単位：百万円

	2008年度 第2四半期末	2007年度末
資産の部		
流動資産	9,150	9,785
固定資産	5,799	4,845
有形固定資産	2,608	1,741
無形固定資産	1,302	1,187
投資その他の資産	1,888	1,916
資産合計	14,950	14,631
負債の部		
流動負債	4,869	5,283
固定負債	1,603	839
負債合計	6,472	6,123
純資産の部		
株主資本	8,201	8,233
資本金	1,390	1,390
資本剰余金	1,959	1,959
利益剰余金	4,851	4,883
評価・換算差額等	2	10
その他有価証券評価差額金	△ 10	△ 2
土地再評価差額金	12	12
少数株主持分	273	263
純資産合計	8,478	8,507
負債純資産合計	14,950	14,631

連結財務諸表作成にあたって

当期から四半期開示制度に伴う会計基準の変更により、連結損益計算書ならびに連結キャッシュ・フロー計算書につきましては、第２四半期累計期間の業績について掲載しております。

前期以前の中間期の数値については、参考数値として掲載させていただいております。

連結損益計算書（要約）4月1日～9月30日

単位：百万円

	2008年度 第2四半期	2007年度 中間（ご参考）
売上高	15,551	15,689
売上原価	12,950	13,107
売上総利益	2,601	2,582
販売費及び一般管理費	2,257	2,252
営業利益	344	329
営業外収益	22	24
営業外費用	14	20
経常利益	352	333
特別損失	―	61
税金等調整前四半期（中間）純利益	352	272
法人税、住民税及び事業税	159	11
法人税等調整額	△ 5	127
少数株主利益	14	△ 1
四半期（中間）純利益	184	135

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

4月1日～9月30日

単位：百万円

	2008年度 第2四半期	2007年度 中間（ご参考）
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,226	2,707
投資活動によるキャッシュ・フロー	△453	△ 271
財務活動によるキャッシュ・フロー	△496	△ 2,393
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	276	42
現金及び現金同等物の期首残高	356	237
現金及び現金同等物の四半期（中間期）末残高	632	280

株主アンケートについて

以下のアンケートに対する回答を、同封の返信用はがきのアンケート回答欄にご記入いただき、お手数ですが、2008年12月20日（土）までにご投函くださいますようお願い申しあげます。アンケートにご回答くださった方には、2009年の卓上カレンダーをご送付いたします。

なお、アンケートはがきは、集計後に責任をもって破棄いたします。

日本最大級の社長動画サイト「賢者.tv」で社長の動画配信中です。

1.年代

①～30歳　②～40歳　③～50歳
④～60歳　⑤～70歳　⑥71歳以上

2.当社株式保有期間

①半年未満　②半年～1年未満　③1年～2年未満
④2年～3年未満　⑤3年以上

3.当社のどのような情報をお知りになりたいですか。（複数回答可）

①経営方針　②事業計画　③新製品・新技術　④強み・特長
⑤事業内容　⑥研究・開発内容　⑦業界情報　⑧IT用語
⑨業績に関する説明　⑩その他（具体的に）

4.当社をお知りになったきっかけは何ですか。（複数回答可）

①証券会社のセールス　②新聞（新聞名）　③一般雑誌（雑誌名）
④株式専門誌（専門誌名）⑤会社説明会　⑥知人の紹介
⑦取引関係　⑧インターネット検索
⑨その他（具体的に）

5.当社株式の保有の理由についてお聞かせください。（重視しているもの１つ）

①事業内容　②業績　③将来性
④値上がり期待　⑤配当利回り　⑥その他（具体的に）

6.今後の当社株式保有のご予定についてお聞かせください。

①継続保有　②買い増し　③売却（あるいは減らす）　④未定

7.当社に開催して欲しいIR関連イベント

①個人投資家向け説明会
②IRフェアへの出展（日経（東京）、東証主催（東京））
③その他（具体的に）

8.10月2日より日本最大級の社長動画サイト「賢者.tv」にて動画を配信しています。

①見た　②見ていない　＊見た方は一言感想をお願いします。

9.当社に関するご意見ご感想がありましたらお聞かせください。

ON

櫻木さんの入社のきっかけは、友人に付き合って当社の会社説明会に参加したからとか。友人が一緒だからと決めたのに、結局その友人は入社しなかった。一人で入社したものの、文系の彼は入社後のＣ言語の教育についていけず、この先やっていけるのかいきなり不安になってしまった。そんな彼を支えてくれたのが職場の上司や先輩達だという。倉敷の席を暖める間もなく各所へ常駐したが、行く先々でいろんな人たちとの出会いがあり、それが彼の宝物になった。そして、当時の医療システム部門へ異動。最初は西日本地域の病院で「管理名人」というパッケージの導入を担当した。東日本地域の病院を担当するようになり、大きなプロジェクトのサブリーダ的立場となった。今までのパッケージとは異なり、一からの作りこみシステム開発だったが、ユーザも医者、看護師、薬剤師そして患者と病院全体に広がりやり甲斐を感じた。自分の一番大切な人が患者だったらどうか、相手が何を求めているかを必死に考えるようになった。医療システム部門での仕事は、大変だったが、世の中のためになっているという実感を得られたという。昨年４月、医療システム事業を他社に譲渡したことについては、寂しさもあったが、さらに発展させるためには専門企業への譲渡も一案なのだと自分を納得させた。その後、現在のソリューション企画推進部へ異動。全社横断的な活動を行う部門で、SAPによるERPソリューションの企画・推進を担当している。これまでの経験を活かし、相手が何を求めているのか、またそれに対して自分がどう応えられるのかを常に考えたい。自分にできることは限られるが、精一杯のことを実現したい…。現在自分に与えられているミッションの達成を目指す彼の表情は決意に満ちていた。

社員紹介

ソリューション企画推進部

櫻木　寛士

（さくらぎ　ひろし）

福岡県出身。1993年入社。初任配属は倉敷だったが、神戸、知多、幕張へ常駐し、オープン系のシステム開発に携わった。1997年秋に旧医療システム部門に異動、パッケージソフトの導入サポートから医療システムの開発までを担当した。今年４月にソリューション企画推進部へ異動。現在はＳＡＰを中心としたＥＲＰソリューションの企画・推進を担当。

○櫻木さんが想うＪＦＥシステムズ

「物作り」をとても大切にする会社で、個性豊かな人材が多く、高いレベルの技術を持っていると思います。あえて足りないものをあげるとすれば、ハングリー精神でしょうか…。当社の提供するシステムが世の中の役に立ち、社員が夢ややり甲斐を持てれば最高ですね。それが実現できる会社だと、私は信じています。

OFF

休日は9才と6才になる二人の娘と近所の公園で遊ぶのが日課。その娘達にペットを飼いたいとせがまれ熱帯魚を買ったが、結局夫婦で世話係をするはめに。春休みにフリーバカンス（9日間の連続休暇）を取るも「娘達は習い事で忙しく、一人で留守番をしていました…」と苦笑い。学生時代にやっていたバレーボールの腕を見込まれて、学校の行事に借り出されたりもするが無理はしない。何事も自然体の“お父さん”なのだ。

Corporate Data　会社概要（2008年9月30日現在）

会社の概要

社　　名	JFEシステムズ株式会社 JFE Systems, Inc.
設　　立	1983年9月1日
資 本 金	1,390,957千円
従業員数	1,304名

取締役および監査役

代表取締役社長	岩橋　誠
取締役	谷利修己
取締役	堀田善一
取締役	畠山廣造
取締役	原　誠
取締役	野村信三
取締役（社外）	菊川裕幸
常勤監査役	南部正悟
常勤監査役（社外）	戸部俊一
監査役（社外）	若林荘太郎
監査役	西川　廣

執行役員体制

社　長（CEO）	岩橋　誠
専務執行役員	谷利修己
専務執行役員	堀田善一
常務執行役員	畠山廣造
常務執行役員	原　誠
常務執行役員	野村信三
執行役員	浅野有一郎
執行役員	宮原一昭
執行役員	杉　充
執行役員	清原庄三
執行役員	福村　聡
執行役員	金藤秀司
執行役員	上條　巧

本社所在地

〒130-0012 東京都墨田区太平4丁目１番３号
TEL.03-5637-2100 FAX.03-5637-2400

株式の状況

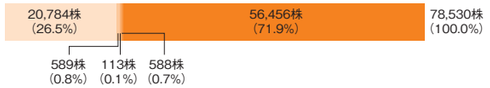
発行可能株式総数	338,050株
発行済株式総数	78,530株
株主数	2,247名

大株主

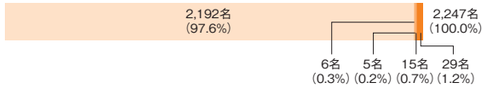
株主名	当社への出資状況 所有株式数（株）	当社への出資状況 持株比率（%）
JFEスチール株式会社	51,165	65.2
JFEシステムズ社員持株会	5,266	6.7
富士通株式会社	2,500	3.2
アトラス情報サービス株式会社	500	0.6
JFEアドバンテック株式会社	500	0.6
JFE電制株式会社	500	0.6
JFEメカニカル株式会社	500	0.6
中央三井信託銀行株式会社	500	0.6
JFE物流株式会社	500	0.6

株式分布状況

＜持株数別株式分布の状況＞



＜所有者別の株主数＞



個人その他　金融機関　証券会社　外国法人等　その他国内法人